

問題Ⅰ

(1) 意思能力と行為能力について、前者が個別具体的な判断を要する能力の問題であるのに対して、後者が定型的画一的な判断を可能にするある種の法律上の資格であることに由来する各種の相違を対比しつつ、それぞれの特徴を的確に叙述できているかをみる問題である。

(2) 欠格と廃除について、前者が法律上当然に相続資格を失う制度であるのに対して、後者が被相続人となるべき者が遺留分を有する推定相続人の相続権を一定の事由に基づいて奪う制度であることに由来する各種の相違を対比しつつ、それぞれの特徴を的確に叙述できているかをみる問題である。

問題Ⅱ

(1) 火災保険金に対する物上代位を素材として、代替的物上代位の理解、いわゆる「差押え」要件の意義及び物上代位の対象となる債権を差し押さえた設定者の一般債権者との優劣の判断基準等を矛盾なく説明できるかを問う問題である。

(2) 賃料債権に対する物上代位を素材として、付加的物上代位の理解、不履行前に発生した賃料債権に対する物上代位の可否、将来の賃料債権に対する物上代位に基づく差押えの可否等を矛盾なく説明できるかを問う問題である。

(3) 転貸賃料債権に対する物上代位の可否についての理解を問う問題である。

問題Ⅲ

当該事項の理解力について見る。

問題Ⅳ

自己株式取得規制についての理解力を見る。

問題Ⅴ

設立・事後設立に関する規制についての理解力を見る。